

東京便り

唾泉の復原を

在京佐伯郷友会名簿に添えて

東京 片岡 博

お断り

私あてのお手紙ですが、いい問題提寄であります。勝手ながら紙上会員に読んでほしいので、独断お許しを乞う。(羽柴)

寒くなって参りました。いよいよ冬がやって来ます。

私事この暮から、新しく出来た会社の仕事で、長岡市へ行っております。従いまして、在京佐伯郷友会のお世話も出来ませんので、今度、大江三郎氏へ田庄和泉にお願ひしました。新しい名簿をお送りします。

その佐伯出身郷友会名簿には、新左に麻生英臣氏、淡沢龍氏、神野幸八氏、田村義雄氏、服部千代氏、伊手茂一氏、六名が史談会員の名前が加わり、全部で十三名となっております。

先日の總會で御手洗一而氏もお出でいたたき、お目ばかりでしたが、先祖のとき勉強して小説にしておられます。全く敬服するばかりです。

先祖といえは、山際通りの茶と次お教が進んでい由、その中で前から免けなっていることがあります。唾泉のことです。

ただ今の片岡の屋敷(私方の)は、大正の末か昭和の初め、片岡正路氏の屋敷の一部を譲り受け、その後建築した家です。

随って家そのものは意味ありませんが、垣根だけは昔のままになっていようです。それよりも井戸が大切で、その前に正路さんが、自分

の庭に井桁だけを移されておりました。土に開いた穴は危ないから、父が今のコンクリート井桁を造って、覆い蓋したのです。

父が井桁は本物ですが、それについていた本物の井桁(まじ高橋便唾泉と命名、松下筑蔵の詩の書かれた)は、隣家ということになったわけですが、いつかの機会に、元に戻しておかぬと、切實の記念物は失うわけ、その点心配していたので。

聞きますと、宇宏氏が最近手放された由、先日日明き家になっていました。今の所有者はわかりませんが、買いと取ることが可能なら、この際元の姿に復元しておきたいと考えております。どうせ再び自分で住むわけでもない家ですが、それは何とか考えておくべきだと思ひます。今の秋山田郎の度の井桁は、単なる飾りものですし、何なら同じような形のものを差し上げて、おれを旧位置に戻してよいと考えております。

同封の写真がそれですが、おるいは今が一つのチャンスではないかと考えます。土屋の六衛さんには一応話してあります。お考えを伺えればと思っております。

ものせは現状のまま文化財としての意義が失われるものでないかということでおれは問題はないわけですが、どうぞその点をご検討下さい。

来年から史談も本印刷になる由、いよいよ実業に整うわけですが、

津島に編集・印刷、ご苦労と思ひます。お元氣でお過ごし下さい。

十一月二十一日 片岡 博

追て、別府の梅木先生に「佐伯文庫」で、おふたのため、その寸成らしさを知りました。(終)